

＊ ニュースレター ＊

2003年2月号より



ごあいさつ  
[歯科審美を発信する](#)  
日本歯科審美学会長 石橋寛二



ごあいさつ  
[アジアの歯科事情と審美歯科](#)  
アジア歯科審美学会 会長 松尾 通



[第14回日本歯科審美学のご案内](#)

[セミナーのご案内](#)

シンポジウム (II) 「21世紀の審美歯科を築く」



[国際審美学会報告](#)  
2002年AAED/IFED Joint Meetingに参加して  
IFED日本歯科審美学会代表  
新潟大学歯学部附属病院総合診療部 福島正義



[学術大会報告](#)  
第13回日本歯科審美学会学術大会を終えて  
大会長 田上順次

[委員会報告](#)



[虫歯治療、樹脂材料で白い歯を](#)  
声をあげよう！  
東京医科歯科大学大学院 う蝕制御学分野 田上順次

| [Back](#) |



2003年2月号より

## ごあいさつ



### 歯科審美を発信する

日本歯科審美学会長 石橋寛二

最近、郷土料理と土地特産食品の風味と豊かさを再発見し、食文化を見直すことから始めて、ライフスタイル全体をも考え直そうという流れが出ております。食は家族、地域、自然の中心に位置付けられるものだけに、その土地に固有の味を守ることは、文化を育てることに繋がると理解されます。歯科医療の最前線にいる私たちも、医療技術の革新を積極的に行い、患者さん本位の、地域に根ざした、質の高い歯科医療を目指さなければなりません。それは、すなわち国民の生活の質を高めることに貢献することになると思うのです。

人が人らしく活動していくためには、身体的（physical）、精神的（mental）、社会的（social）に調和していることが必要だと言われます。社会状況と患者さんの意識の変化は、当然ながら歯科医療の変化へと連なります。疾病の治癒から健康の維持へ、症状が発現したときだけではない持続的・総合的医療へ、歯科医師の指示ではなく患者さん自身が臨床決断に参加する関係へ、経験主義から事実に基づく医療へとシフトしております。

そして歯科医療を取り巻く環境に目をやるとき、「もの」志向から「こころ」への変化を社会が求めていることに気づきます。画一化されない多様な価値観に支えられた現代社会にあって、「こころ」に軸足を置いたライフスタイルに呼応する本学会の姿が浮かんできます。

これらの背景を認知して、日本歯科審美学会は動き、世に発信してきました。とりわけ最近の本学会は、多くの会員の意見を吸収しながらエネルギーに進んでおります。学術大会やセミナーに参加された方々は、今までとは違う何かを感じているのではないのでしょうか。

私は今、「歯科審美とは、口腔領域における美を求めることによって、健康寿命の延長を目指した新しいライフスタイルの構築を支援するもの」と理解しております。本学会が、価値ある歯科審美を会員に、社会に発信し続けるために、多くの方々のご意見とご協力をお願い申し上げます。



2003年2月号より

## ごあいさつ



### アジアの歯科事情と審美歯科

アジア歯科審美学会 会長 松尾 通

アジアを語る時、手元に世界地図を一冊用意する必要がある。地球上の総陸地面積の1/3に相当する広さを持ち、30億人以上の人口を持つアジアには、様々な国が存在し、多種多様な民族、文化、言語、宗教が見られる。

いま世界の耳目を集めているイラク、北朝鮮の両国もアジアであり、鳥瞰して、鳥の目で見れば地政学上の問題も理解しやすくなる。

まずアジアの領域だが、アラビア半島から地中海東岸を経て、トルコ、グルジア、カザフスタン国境からウラル山脈以東のロシアに至るラインの東、日本、台湾、フィリピン、東ティモールに至るラインの西の範囲となる。

そしてこれらの地域を、西アジア、中央アジア、南アジア、東南アジア、東アジア、ロシアの6地域に分けて考える。結論づければ、47ヶ国、6地域が現在のアジアである。

2002年、7月6～7日、韓国ソウルにて第7回アジア歯科審美学会が開催され、その席上で次の2年間アジア歯科審美学会会長の職を委嘱された。

アジア諸国の歯科事情を見ると、日本のように臨床、研究、教育の三本柱がシステムの的に機能している国もあれば、エマージェンシーとして歯痛を止めるのがやっとという国も多い。

歯科医師過剰を訴える日本は例外的で、ほとんどの国で歯科医師不足が深刻である。

また社会保険が整備されていて誰もが歯科医療に容易にかかれる日本と、貧富の差が激しく、一部の富裕層のみが歯科医療を受けられる多くの国との格差も厳然たる事実である。

こうした状況下でも審美歯科は多くの国で、人気があり成長する分野としてとらえられている。

高度の審美性を追求することとせめてアマルガムをコンポジットに変えたいとすることにどれだけの差があるかは別として、健全な審美歯科の発展のためにアジアの国の歯科医師が情報を公開し、同じテーブルで語り合うことは大切なことである。

2004年7月17～19日、名古屋国際会議場で第8回アジア歯科審美学会を開催する。

会員各位のご協力とご支援をお願いする次第である。



2003年2月号より



**第14回日本歯科審美学会のご案内**

大会長 新谷英章

審美歯科治療の質を考えた場合、治療に対する我々サイドの「知識」と「わざ」の高揚が不可欠なことは言うまでもありませんが、患者さんの「ここを癒す」という観点も忘れてはならないと思います。

そこで、来る大会では、とくに、患者さんを全人的に治療するための「審美歯科の質」というものにスポットを当てたいと考えています。すなわち、患者さんのここを癒す審美歯科とは何か、患者さんが癒される審美歯科とは何かにとくに焦点を当て、患者さんの美しい笑顔

(Beautiful Smiles) を得るためには、知識や技術のみならず患者さんの心理も含めその背景にあるいろいろな要素を考慮しなければならないということ、そして我々も癒されなければ治療の成功はありえないこと等を中心にして、もう一度その辺りを見直そうという観点より学術大会を構成したいと考えています。また、「白い歯と美しい笑顔」のための学術情報を市民に発信し、啓蒙活動を行うために市民フォーラムも学会期間中に開催する予定です。

会員の皆様のご協力、ご支援を賜りながら来る学術大会を意義あるものにできればと思っています。よろしくお願い申し上げます。

**【大会長】**

新谷英章

**【会 期】**

平成15年11月1日（土）、2日（日）

**【会 場】**

広島県歯科医師会館、エソール広島  
〒730-0043 広島市中区富士見町11-9

**【メインテーマ】**

「美しい笑顔と審美歯科 : Beautiful Smiles in Esthetic Dentistry」

**【学会内容】**

会長講演・特別講演・教育講演・シンポジウム・テーブルクリニック  
ポスター発表・市民フォーラム・器材展示

**【照会先】**

〒734-8553 広島市南区霞1-2-3  
広島大学大学院医歯薬学総合研究科  
顎口腔頸部医科学講座 保存修復学研究室内  
第14回日本歯科審美学会学術大会事務局  
準備委員長 富士谷盛興

TEL.082-257-5656 FAX.082-257-5659

E-mail : [iorioki@hiroshima-u.ac.jp](mailto:iorioki@hiroshima-u.ac.jp)

---

| [Back](#) |



2003年2月号より

## セミナーのご案内

### 新世紀の審美を拓く

日本歯科審美学会が2年間にわたり開催してまいりましたセミナーもスケジュールの最後となりました。この間に、審美歯科は広く一般に普及し、もはやしっかりと市民権を得た感が致します。そこで、セミナーの締めくくりとして、「21世紀の審美歯科を築く」と題し、シンポジウムを企画致しました。パネリストには日本の審美歯科界を代表する臨床家に参加を戴き、審美の真髄とは何かを熱く語っていただくよう考えております。又、「ヨーロッパの審美歯科の潮流」として、リヒテンシュタインの臨床家でもある、Dr.ゲリー・ウンターブリックに特別講演をお願いし、その後シンポジウムにも加わって頂く予定にしております。奮ってご参加下さい。

(委員長 佐藤 孝)

### シンポジウム (II) 「21世紀の審美歯科を築く」

- **日時** 平成15年3月21日 (金・祝) 午前10:00～午後4:30
- **場所** ゲートシティホール (JR大崎駅/東京都品川区大崎1-11-1)  
TEL : 03-5496-5311
- **特別講演** 「ヨーロッパにおける審美歯科の潮流」  
講師 : ゲリー・ウンターブリック (リヒテンシュタイン)
- **シンポジウム** 「21世紀の審美歯科を築く」  
パネリスト



ゲリー・ウンターブリック



片岡 繁夫



筒井 昌秀



本多 正明



内藤 正裕



山崎 長郎



丸山 剛郎



(コーディネーター)

黒田 康子

- **申込及び問い合わせ先**

〒107-0003 東京都豊島区駒込1-43-9  
(財) 口腔保健協会内 日本歯科審美学会セミナー委員会事務局  
セミナー申込係

TEL : 03-3947-8891 FAX : 03-3947-8341

切日 平成15年3月14日

---

| [Back](#) |



2003年2月号より

## 国際審美学会報告



### 2002年AAED/IFED Joint Meetingに参加して

IFED日本歯科審美学会代表

新潟大学歯学部附属病院総合診療部 福島正義

ニューヨークでのテロ事件のために1年延期されていた第3回IFED大会がDr. Ronald E Goldstein およびDr. Philippe GallonのCo-Presidentのもとで2002年10月3日から5日の3日間、ワシントンDC郊外のバージニア州アーリントン市のハイアットリージェンシー・クリスタルシティで開催された。ヨーロッパ歯料審美学会（EAED）主催の第1回設立大会（フローレンス、イタリア、1994年）、日本歯科審美学会（JAED）主催の第2回大会（京都、1997年）に続いて、アメリカ歯科審美学会（AAED）が第3回大会のホストとなりAAED年次大会との併催の形で行われた。今回で3つのIFED設立メンバー（EAED, JAEDおよびAAED）のホスト役が一巡したことになる。AAED/IFED全体では約600名の参加者があり、そのうち日本からは60名を越える参加があり、IFED大会への日本の貢献を大いにアピールすることができたことは誠に喜ばしいことであった。大会はAAEDの大会場とIFEDの小会場に分かれて同時進行の形をとり、IFED会場はInternational Showcaseと称するセッションとして行われた。3日間で各加盟団体からの代表33名が広い分野に及ぶ内容の講演を行った。日本からは筒井昌秀先生（北九州市開業）と石島 勉先生（北海道医療大学、補綴1）が講演され、その内容が高く評価された。ポスター発表では7題の発表があり、そのうち3題が日本の大学（愛知学院大、新潟大）のものであった。大会前日には2001年AAED会長Dr. Daniel Y. SullivanがIFED理事会の関係者をワシントンDC郊外の高級住宅街にある私邸に招いて歓迎パーティを開いて下さった。また、期間中には会長歓迎パーティがスミソニアン博物館の一つである国立航空宇宙博物館を全館貸し切って行われた。日本の国立博物館では考えられないことであるが、タキシード姿でワイングラスを片手に館内の世界的に有名な展示物を自由に見てまわられた。さすがのアメリカ人もこのような経験ははじめてとのことであった。このパーティではIFED加盟団体の歴代会長と現会長に功労賞の贈呈式が行われた。参加した日本人としてはJAED前会長岩久正明先生とアジア歯科審美学会（AAAD）会長松尾 通先生へ記念の楯が授与された。



日本代表で講演された筒井昌秀先生（左）、石島勉先生（右）



第1回大会から今回までの間、IFED加盟団体は3団体から18カ国20団体にまで成長し、さらに加盟を希望する国あるいは団体の申請があると聞いた。この分野の世界的ネットワークの急速な広がりに驚くとともに、欧米地域とその他の地域との融和をはかるために設立メンバーであるJAEDの役割が問われる時期に入ったことを感じた大会であった。尚、次の第4回大会はヨーロッパに戻って2004年5月にイタリアのベニスで開催される予定である。IFEDの活動状況についてはホームページ (<http://www.ifed.org/>) を御覧下さい。



筒井先生講演ご苦労様会での諸先生

---

| [Back](#) |



2003年2月号より

## 学術大会報告

### 第13回日本歯科審美学会学術大会を終えて

大会長 田上順次

メインテーマ「わざと叡智の邂逅：The Art and Science of Esthetic Dentistry」のもと、平成14年11月17、18日に、学術大会を開催することができました。参加者は約300名、器材展示は22社でした。会場は千代田区神田一ツ橋の学術総合センターでした。残念ながら500名収容の大ホールを満席にすることはできませんでした。多くの方々に参加いただけるよう、時間をかけてプログラムを練って参りましたが、事前の案内が遅れたり、宣伝活動が十分にできなかったことで、期待していたよりも少し参加者が少なかったという印象を持っております。大会長として大いに反省し、この場を借りてお詫び申し上げます。

一般演題は21題で、非常にバラエティ豊かな内容となりました。デンツプライ賞には、投票の結果、ライオン歯科衛生研究所の石川氏、今西氏の口臭に関する研究発表が選出されました。口臭までが歯科審美学の中で討論され、評価されるというところが本学会の柔軟なところではないでしょうか。これからも様々な話題を本学会で取り上げていただきたいと思います。

会長講演では、本学会の足跡と、石橋会長自らの活動の記録とをリンクさせながら現状を分析し、将来を展望していただきました。教育講演、シンポジウムなども十分な時間が確保できず、演者の先生方には多大なご迷惑をおかけいたしました。結果的に討論の時間がなくなってしまったのは少し残念な気がいたしました。



特別講演のクライバー教授

個人的には、アルミナやジルコニア系の新材料の普及に対する小田中先生のコメント「技工料金が1万円上昇しただけで、5万円も患者さんの負担が増えるようなことがなければ、きわめて有望な材料で普及も期待できる」というのが、最も印象的でした。また、クライバー教授のご講演では、会長とゲスト参加の田端東京医科歯科大学名誉教授とで、「レジンも見直さないといけな

いねえ」とお話されておられましたことも、うれしく感じました。

本大会のために多くの先生方や企業の方々にご協力を賜り、学会を大いに盛り上げていただきましたことは大変ありがたく、かつ光栄に存じます。どうもありがとうございました。



2003年2月号より

## 委員会報告

### 学術委員会

本学術委員会も本年4月から最終年度に入りますので、懸案事項につきまして改善に向けて検討を進めていきたいと考えております。

#### 1. 第13回学術大会

1. 昨年11月16・17日の両日、東京学術総合センターにおいて田上順次大会長（東京医科歯科大学）主管の基、盛大かつ成功裏に開催されました。
2. 同大会時に、デンツプライ賞候補者として石川正夫氏（ライオン歯科衛生研究所）が選出されました。
3. 学会優秀発表賞につきましては、現在選考準備中です。

#### 2. 次回（第14回）学術大会

本年（平成15年）11月1・2日の両日、広島県歯科医師会館において新谷英章大会長（広島大学）主管の基で開催予定ですが、鋭意準備が進められております。広島で皆様をお待ちしております。

#### 3. 第8回アジア歯科審美学会・第15回日本歯科審美学会学術大会のの両大会が併催されます

来年（平成16年）7月17～19日、名古屋国際会議場において千田彰大会長（愛知学院大学）主管の基で開催予定であります。学術大会準備委員会も立ち上がり、準備が始められております。

特に、アジア歯科審美学会は、日本歯科事実学会がホストでもあり会員の皆様には名古屋に盛大にご参集下さい。

学術委員会委員： 浅田雅之、市川哲雄、大槻昌幸、木村幸平（委員長）、妹尾輝明、東光照夫、富士谷盛興、細田幸平、古田喜代子、安田 登、依田正信（幹事）（敬称略  
アイウエオ順）

オブザーバー： 佐藤孝セミナー委員長、長岡英一編集委員長、黒田康子広報委員長

（委員長 木村幸平）

### 編集委員会

15巻2号の編集作業が最終段階を迎え、早いもので、新メンバーによる編集委員会がスタートして一年が経とうとしています。

前報にて、編集委員会の活動方針として掲載論文の質と量を一定水準に維持する方法について検討すること、特に講演論文の取り扱いが最重点課題であることをお伝えしました。その後、講演論文の取り扱いについて、理事にアンケート調査を実施し、貴重なご意見をいただき、それをもとに編集委員会で議論し、16巻から新しい誌面構成にするべく、検討を重ねています。

15巻2号にご投稿いただいた講演論文について、数編は原著論文や臨床論文としての体裁を整えて再投稿していただくように依頼し、ご協力を得ることができました。

セミナー委員会のご尽力によるセミナーが好評を博していますが、セミナー開催記を15巻2号と16巻1号に掲載予定で、執筆者にご無理をお願いしました。

「生涯学習」をテーマとする誌上座談会を企画し、関連のある先生方に参加を依頼しました。座談会を4月7日に実施し、その内容を16巻1号に掲載する予定です。

以上、編集にご協力いただいた関係各位に、この紙面をお借りして感謝申し上げます。今後も、歯科審美の充実のため編集委員一同尽力いたしますので、会員各位のなお一層のご支援をお願い申し上げます。

(委員長 長岡英一)

## 会則検討委員会

**1. 11月15日開催の理事会、評議員会並びに16日の総会において会則改正の審議を行ない、以下の項目について下記のごとく了承された。**

1. 第15条 役員会は常任理事会、理事会及び評議員会とする。
2. 第16条 常任理事会：総務・財務・編集・学術・セミナー・国際渉外・会則検討・広報・認定医制度等を担当する理事を常任理事とし、実務を分掌、処理するため、理事会とは別に常任理事会を組織し、会の運営にあたる。加えて歯科衛生士・歯科技工士部門等を担当する常任理事をおく。
3. 第17条 理事会：
4. 第18条 評議員会：役員選出・財務・事業・会則・その他、会の運営に関する重要な事項について審議する。

**2. 日本歯科審美学会学術大会開催時における役員会の開催に関する事項を内規に設ける。**

1. 理事会と評議員会を併催する。（議長は大会長が行なう）

(委員長 新谷英章)

## 認定審議会

1. 第13期（平成15年度春季）認定医申請の受付を実施いたします。希望者は受付期間中に申請書類を（財）口腔保健協会の学会事務局宛にご送付下さい。なお、詳細は「歯科審美」第15巻第2号に掲載する“認定医申請についての会告”をご参照下さい。  
認定医申請受付期間：平成15年4月1日（火）～平成15年5月9日（金）（必着）。
2. 本年度認定医更新者（第4期）の方には、更新通知とともに“認定医更新申請書（様式8-1～4）”を送付いたしますので、更新手数料5万円をお振込の上、学会事務局宛にご郵送願います。

（委員長 加藤喜郎）

## 認定士制度検討委員会

### 日本歯科審美学会認定士制度検討委員会発足（設立）

日本歯科審美学会認定医制度が発足して多くの歯科医師が認定医として認定されています。しかしこの制度は歯科医師を対象とした制度であり、本学会には歯科医師以外の会員も多数入会しており、その会員の方々を対象とした認定制度を設ける目的で「日本歯科審美学会認定士制度検討委員会」の設立が先の評議委員会、総会で承認されました。

この認定士制度は、日本歯科審美学会の会員で歯科審美に関して臨床、教育、研究の場で活躍されている歯科技工士、歯科衛生士を対象として、日本歯科審美学会認定士審議会がその資格を審議し日本歯科審美学会が認定するものである。

具体的には、認定士制度規則、施行細則を設け認定士審議会でその申請者を審査するが、歯科技工士関連では歯科審美の中でも得意とする専門分野を明示してその認定士を広く世界に知らしめる。歯科衛生士に関しては口腔衛生を通じて歯科審美の重要性、必要性を訴えてゆく。また、将来的には、海外の対象者もその視野にいれるようにする方向で検討されています。

この制度は、次年度からの運営開始を目指して認定士制度検討委員会でより詳細に関して検討されていますので、多数の会員の申請を期待しています。

（委員 齋木好太郎）

## セミナー委員会

日本歯科審美学会が2年間にわたり開催してまいりましたセミナーも、いよいよ残すところ1回となりました。

そこで、セミナーの締めくくりとして「21世紀の審美歯科を築く」と題し、シンポジウムを企画致しました。

パネリストには日本の審美歯科界を代表するスターたちに登壇いただき、審美の真髓を熱く語っていただくよう考えております。又、同時に、白水貿易（株）の御好意により「ヨーロッパの審美歯科の潮流」と題し、リヒテンシュタインの臨床家であるDr. Gary Unterbrink（ゲリー・ウンターブリック）に特別講演をお願いし、その後シンポジウムに加わって頂く予定です。振り返ってみますと、2年前から始まりましたセミナーも毎回200名余の参加を戴き、大盛況のもとに運

営されてまいりましたことは、一重に会員の先生方の大変な御協力と御援助の賜物と、セミナー委員一同深く感謝申し上げます。

今回のシリーズ終了後も、多数の会員の方々からセミナー継続の希望が多く寄せられておりますことからして、セミナー委員会で充分検討致しまして新しい企画を御提案したく思います。

何か、御意見がございましたらセミナー委員会まで御一報頂ければ幸いです。

(委員長 佐藤 孝)

## 国際渉外委員会

### IFED報告

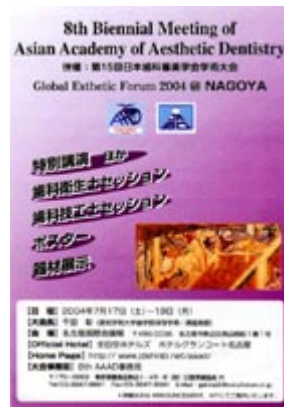
第3回IFED大会については福島先生から報告させていただきます。しかし、わずか3つの国の創設者によってスタートしたIFEDが、いまや世界各地の19のAcademyを擁し、さらに数力国のAcademyが加盟を希望する文字通りの国際組織に成長したことはぜひ皆様にも知って頂きたいと思っております。そしてそれなりの世界的規模の責任を果たさねばならなくなってきた状況も知って頂きたいと思っております。歯科審美学、良質な歯科医療を通して人々の健康と幸福に貢献するという究極の目標のためには、国境や様々な隔壁を取り去ることが必要であって、そのようなことから創立メンバーであるJAEDの活動もさらに意義あるものになると思っております。できるだけ多くの皆様の次回ベニス大会（2004年5月）への参加をお願いし、ホームページ (<http://www.ifed.org/>) をご覧頂き、IFEDそのもの、IFEDにおけるJAEDの活動にご理解と、ご協力をお願いします。

### AAAD報告

昨年ソウルでの第7回アジア歯科審美学会（AAAD）大会を盛会裏に終え、松尾 通新会長（本学会副会長）を迎えて日本で大会を開催する時がきました。またその前、きたる11月の第14回本学会大会（広島）ではアジアの加盟各国から多くの仲間が広島に集います。そして別にご案内する通り、2004年7月16日から19日まで第8回AAAD大会、Global Esthetic Forum 2004@NAGOYAが名古屋国際会議場で開催されます（次ページを参照下さい）。

AAADも加入国が増え、個人会員制から連盟制への移行、IFEDとの関係などいくつかの重要な問題を抱え、一つの転機を迎えています。そのような時に会長を送り、そして大会をホストするJAEDの果たす役割は重大であろうと思っております。ここでもぜひ皆様のご理解、ご支援をお願いしたいと思っております。

### 第8回アジア歯科審美学会大会



第8回アジア歯科審美学会大会“Global Esthetic Forum 2004@NAGOYA”を日本歯科審美学会第15回学術大会に併せて開催します。盛り沢山のプログラムに加え、歯科衛生士、歯科技工士セッションや世界各メーカーによる最新の器材展示などを行い、より多くの皆様に参加頂けるよう企画しています。

アジアのそして世界の“なかま”とともに最新、理想のEsthetic Dentistryに出会いましょう！

(委員長 千田 彰)

## 広報委員会

14年度第2回理事会・評議委員会でホームページの大幅な改定が承認されましたので、現在その作業を進めています。審美歯科についての正しい情報を提供し、健康で美しい口腔環境を維持することの重要性について理解を深めることを目的として、一般の人たちを対象としたセッションを作製しています。患者さん達の主訴を切り口として、それを解決するための手法について症例を提示してわかり易く説明する予定です。4月にはオープンしたいと委員は総力をあげて取り組んでいますので、ご期待ください。

また、認定医登録されている先生方の名簿をご本人の了承のもとに、専門分野を明示してホームページに掲載することも理事会・評議委員会で承認されました。患者さんたちはどこへ行けばよい審美歯科治療を受けられるのかという情報を欲しがっておられます。セミナー委員会による2年6回のセミナーも3月21日の最終回を残すのみとなり、必要条件をクリアされた会員の方々も増えたことと思います。認定医制度規則・施行細則をご一読の上、一人でも多くの先生方に認定医の申請をしていただきたいと思います。

今回も、学会活動を会員の皆様にお知らせすることを第一目的としてニュースレターを編集いたしました。より良い紙面づくりのために、ご意見、ご感想、ご提案など何なりとお聞かせいただきたいと思います。審美学会事務局あてにお送りください。

日本歯科審美学会ホームページ (<http://www.jdshinbi.net/>)

(委員長 黒田康子)



2003年2月号より

## 虫歯治療、樹脂材料で白い歯を



**声をあげよう！**

東京医科歯科大学大学院 う蝕制御学分野 田上順次

昨年8月31日朝日新聞朝刊の「私の視点」欄で「虫歯治療、樹脂材料で白い歯を」と題する意見を掲載していただいた。各方面より様々な意見をいただき、本学会では細田理事よりさらにこうした意見を社会に広く主張すべしとの激励お言葉をいただいた。

記事の要旨は以下のようなものである。

「白い歯展望が高まっているが、一般には高価な治療と考えられている。現在では科学技術の進歩により、レジン材料で十分丈夫で審美的な治療が可能である。この方法では1回で治療ができ、歯質保存的であり、無痛治療も可能だ。しかし残念ながら諸外国の趨勢とは異なり、日本では白歯には余り使用されていなくて、ほとんどが金属修復である。理由は保険点数が低すぎるため、歯科医にとっては治療すればするほど赤字が増えるからである。より多くの人に普及するためには、保険点数をあげるべきだが、これは到底望めない。ならば自由診療にするべきで、経費材料費などから計算すれば適切な料金が設定されよう。米国では平均200ドル程度であり、この料金であれば日本の歯科医師もレジン患者さんに勧めることができる。何もかも保険で高度な歯科医療をとるのは無理な話だ。患者さんの満足度は低いけど極度に低額な保険治療と、法外な自費診療に二分されがちな日本の歯科医療にも、患者さんの多様化するニーズにあらたな選択肢を提供すべきだ。」

さて、このような事態を招いた責任はどこにあるのだろうか。

数年前に歯科保存学会で同様の意見を投げかけてシンポジウムを企画したところ、参加者から。

（ほとんどが大学の先生方）の反応は非常に低調であり、拍子抜けをした。ただ一人、開業医の先生から、企画について感謝された。大学人としてはついつい学術的な活動に逃げ込んでしまいがちだ。

当事者が声をあげずにいったい誰が制度や規則を変えてくれるのか。機会があるたびにひとりひとりが、また各学会として、不合理なものは不合理であると、社会に訴えていただきたいものである。